

第9回日本家族社会学会大会

第9回日本家族社会学会は、1999年9月18日（土）、19日（日）に慶應義塾大学三田キャンパスにおいて開催された。1日目は自由報告のほかに、「第1回全国家族調査の実施と成果」と題する特別セッションが設けられ、調査終了をふまえて、その概要と特性に関する説明がなされた。2日目は、午前中に3つのテーマセッション（「先進諸国における家族政策の新たな展開」、「家族研究のための測定と方法（2）」、「全国サンプル個票データの利用による日米比較分析」）が開催された。どのセッションの内容も、今後の家族社会学において重要な示唆や知見を含んでおり、同時に開催された故に全ての発表に参加できなかったことは残念であった。また午後からは、『21世紀の日本社会と家族のあり方』を考えるシンポジウムの第1回目として「経済システムの変化と家族」が開催された。経済領域の専門家を含む4名のシンポジストから、戦後の日本経済や雇用慣行の変化と家族の関連について報告があり、参加者と報告者との間で活発な質疑応答がなされた。

本研究からは、小島宏氏がコーディネーターとして「先進諸国における家族政策の新たな展開」のテーマセッションに携わったほか、赤地麻由子氏が「出生タイミングと家族政策 - スウェーデンにおけるパネル調査の分析から -」、新谷が「家族における出産・育児機能の変容 - はたして家族は多様化してゆくのか - 」と題する報告をおこなった。
(新谷由里子記)

環境経済・政策学会1999年大会

環境経済・政策学会（会長：佐和隆光・京都大学教授）の1999年度大会（大会実行委員長：宮本憲一・立命館大学教授、大会事務局長：小幡範雄・立命館大学教授）が1999年9月25日（土）～26日（日）の2日間にわたって京都市の立命館大学で開かれた。今回は事実上の第4回の研究大会であり、「東アジアの環境問題・東アジアの大都市問題A～D」、「環境管理・会計・環境監査A～B」、「環境行政と法・ローカルアジェンダA～B」、「環境政策諸手法の比較と評価A～B」、「公共事業と環境」、「国際環境協力A～B」、「地球温暖化対策・COP3京都会議以降の展開A～C」、「廃棄物・リサイクルと環境政策A～D」、「環境評価と環境資源勘定A～B」、「環境保全意識と行動・政策決定と市民参加A～B」、「技術革新と環境」、「エコビジネス」の12種類のテーマで26のセッションが行われるとともに、3コマの自由論題報告が行われた。昨年創設された英語セッションは本年は開設されず、外国人による英語の報告が一般セッションの中に入れられていた。

第2日目午後には宮本憲一教授による特別講演「20世紀の環境問題を振り返って」とシンポジウム「歴史遺産・自然遺産とアメニティ」が行われた。シンポジウムでは開催校の石見利勝・立命館大学政策科学部長による総合司会の下で西村幸夫（東京大学）、木原啓吉（江戸川大学）、刈谷勇雅（文化庁）、江口陽子（世界銀行）、野口英雄（ユネスコ）の各氏によるパネル討論が行われた。京都という地の利を生かした適切なテーマで興味深い討論が行われた。

学会の性格上、人口に関連する報告は少なくなかったが、人口関係者によるものは以下の2報告のみであった。

第11セッション 「東アジアの環境問題・東アジアの大都市問題C」

16. 東南アジアにおける持続可能な都市化、女性の地位、宗教 実証分析結果

<報告者> 小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）、B. リマノンダ（チュラロンコン大学人口学部）、N. B. オヘナ（フィリピン大学人口研究所）

第12セッション 「環境政策評価諸手法の比較と評価B」

10. 完全雇用政策の環境評価

< 報告者 > 野上裕生 (日本貿易振興会アジア経済研究所)

地の利を得たせいかな本年度の報告数は150に迫っており、京都で開催された割には各会場も盛況であった。来年度大会はつくば市で森田恒幸博士 (国立環境研究所) を中心に行われることになっており、学会の更なる飛躍が期待される。

(小島 宏記)

第64回日本民族衛生学会総会

日本民族衛生学会の1999年度大会 (会長: 菅原和夫 弘前大学医学部教授) は9月25~26日、同大学医学部コミュニケ - ションセンター (弘前市) で開催された。初日は下記の特別講演および会長講演が行なわれた。

- 特別講演 . 歩兵五連隊八甲田雪中行軍の謎
松本明知 (弘前大学医学部麻酔科教授)
- . ライフスタイルと健康
森本兼曩 (大阪大学医学部環境医学教授)
- . 豊かなる縄文文化
岡田康博 (青森県教育庁文化課文化財保護主幹)
- 会長講演 運動と活性酸素
菅原和夫 (弘前大学医学部衛生学教授)

2日目は約60題の一般口演がなされ、保健統計、疫学、人類生態など人口学に関連のある分野の発表も多数にのぼった。本研究所からは佐藤が参加し、「保健統計」の分科会で「わが国における未婚者の性行動の現状: 第11回出生動向基本調査の結果から」と題する発表を行なった。

(佐藤龍三郎記)

ヨーロッパ人口会議 (European Population Conference) : 1999年ハーグ (オランダ) に参加して

1999年8月30日 (月) ~ 9月3日 (金) の5日間、オランダのハーグにおいて、ヨーロッパ人口学会 (EAPS), IUSSP, NIDI 等の共催によるヨーロッパ人口会議 (1999年) が開催された。この会議はIUSSPの4年に1度の大会の中間年に行われており、今回で4回目になる (前回は1995年のミラノ大会)。本大会のメイン・テーマは「ヨーロッパ人口 - 多様性のなかの共通性 (European Populations: Unity in Diversity)」というものである。このテーマは、特に第2次大戦後から今日にかけて起こっているヨーロッパ地域の出生力、家族形成、健康・寿命、国際人口移動、高齢化、人口の増加と減少などの人口状況の変化について、その各国間の共通性と異質性を探り、ヨーロッパの人口状況の将来動向を知る手掛かりをうることを目指していると解することができる。

大会の主催者 (オランダ学際人口研究所 (NIDI) が中心) のより具体的な意図は共通論題のテー